

チャレンジする Someone NEWS

～挑戦者の履歴書

第32回

増田 頼保氏 (画家、地域イノベーター、代表)

——コギト・エルゴ・スム!

一般社団法人 洗楓座 代表理事 佐藤建吉

▼修行にスペインへ

増田頼保氏との出会いは、30年も前になる。当時は、互いに若かったが、風車の新機軸をめざしていた。その最初の出会いは、風力エネルギー協会のシンポジウムではなかったかと思う。増田氏は、当時、モニユメント風車を手掛けていた。1994年に異業種交流組合プロードを結成し、画期的なデザインや発想などで先導的な役割を担っていた。その時代に、アートを取り入れて風車を普及させる意味では、大きな貢献をしたといえる。

増田氏は、1956年3月の生まれ、高校を卒業後、地元の役場に勤めたが、絵画やアートについて関心が高く、地元の現代美術作家で、ニューヨークでも活躍した河合



豊田国際紙フォーラム展2021への出展作品「Between sunrise and setting sun」

勇氏(1931~80年)のアート教室で教えを受けていた。20歳の時、その教室で、当時シンガーソングライターをしていた智雪さんと出会った。3年後、頼保は役所を辞め、二人でスペインに、いわば、駆け落ち同様の1年後には行くことができたという。

縁あってスペイン国立ヴァレンシア工科大学教授ラモン・デ・ソト氏に師事できたことにも関係してか、作品を制作し、展示・販売でどうやら暮らすことができるようになった。年間3回の展示会を行えるようになった。こうして頼保は、なかなか実力のある画家でもある。この間に長女が生まれた。孫の誕生をみて、親子の関係も修復し、成果を得て帰国することが出来た。スペインに旅立った。まず、ペインに旅立った。まず、ペインは風車の先進国であり、その刷り込みもあり、帰国後には風車の開発を、モニユメント風車として行った。

「夢」は、現実ではない理想を抱くことであり、理想と現実が一致すれば「夢」であり、天と地、理想と現実が一致すれば「夢の実現」である。そのため、情熱が必要である。今回は、情熱をもって行動し、かつ今もそうしている「挑戦者」を紹介したい。

▼「コギト・エルゴ・スム!」

頼保と智雪の二人は、100万円の所持金でスペインに旅立った。まず、ペインに旅立った。まず、ペインは風車の先進国であり、その刷り込みもあり、帰国後には風車の開発を、モニユメント風車として行った。

「見ても楽しい風車、微風でも回る風車」

増田氏は、帰国後にアート作品の制作、設置、展示などを行う自社を運営している。また、自身のデザイン力を活かす取り組みとして、既述のように地元の民間会社と異業協同組合プロードを結成し、製品化させたのが、別名「サイレント・エナジー・システム」「エオリカ」である。

この作品は、「エコ・ジャパン・カップ2010」のエコ・アートカテゴリで、進グランプリを受賞した。作品は、「スパイラル・エンジェル」と名付けた風車で、天使(エンジェル)の羽根でエコロジーの世界に連れて行くというコンセプトで作られている。モバイルアートとして

連載

の代表で、受賞の名譽を得たのが、モニユメント型風力発電機「エオリカ」である。当機は、地球温暖化への警鐘と共に広告媒体としての存在感をアピールしながら、化石資源だけに頼らない自然エネルギーの今後のあり方を表した。当時、しばしば表現された「企業の社会的責任と地域貢献」という見地からの風力発電による広告効果もある。

また、福井県が原発銀座と言われ世界的に有名なこの負の存在の重圧に対して頼保自身、何ができるかを考えてきたことへの、答えでもあった。

▼地域での活動「トピックス」

現在行っている地域プロジェクトは、『ふくい8(無限大)Lowアートプロジェクト』である。その要点には、

- ①5人の越前和紙の作品展
- ②子どものための越前和紙のワークショップ
- ③アイオワ大学から4名の大学院生が越前市にて越前和紙研修
- ④アイオワ大学で日米交流紙展の開催を今後企画する

がある。次のスケジュールで実施される。

▼まとめ

増田頼保氏は、画家として40年が過ぎたが、幅広い芸術活動をしている。増田氏は思う、「春には桜吹雪、荒れ狂う夏は風、落葉舞い散る秋の紅葉、冬将軍が訪れる風の世界はもう我が物顔。四季それぞれの風は景色に彩りと風情を醸し出し、私に与えてくれる豊かな楽しみである。作品を通していつでも風が見えることを表現したい。その舞台が作品と考えられている」と。

海外を知り、ふかやまに帰り、活動する「コギト・エルゴ・スム」。思考する挑戦者&アーティストである。

【職歴】

2020年「福井小水力利用推進協議会」会長(現在に至る)

2017年「MADE IN FIELD」代表(現在に至る)

2006年「匠」人材ロードが、新エネルギー財団主催の新エネルギー地域共同研究センターで「新エネルギー財団会長賞」受賞

1995年「スペイン国立ヴァレンシア工科大学」カラシップ奨学(株式会社 ホルベイン)

1994年「ボランテア活動等」国際交流基金フェローシップ助成事業に採択される(1979~2022年)

1986年「代表取締役」文化部長(現在に至る)

2016~2022年「越前市岡本地区自治振興会」文化部長(現在に至る)

2012~2022年「福井小水力利用推進協議会」(現在に至る)

2004~2022年「いまだて遊作塾代表(現在に至る)」

2010年「eco japan cup 2010 eco art部門」で進グランプリ受賞

2004年「協同組合ロード」が、第3回産学官連携推進功労者「科学技術政策担当大臣賞」を受賞

1992~1995年「今立町結び村構想研究会」研究員

1999年「協同組合ロード」が、中小企業異業種交流財団主催の融合化立



増田頼保氏

いまま住んでいる郷里の古民家は、自然との関わりを深くしてくれた。筆者はこれまで、2回は増田家を訪ねたことがある。広い自宅は、住まい

「スパイラル・エンジェル」の外観



意外と知られていない。また、別の取組みとして、現在、福井県立大学の学内研究として地域貢献研究を推進中である。これからの匠と現代」の授

業や「今立現代美術展展」(いまだて遊作塾)でのアートデータ(写真・フィルム、ビデオ磁気テープ、紙媒体など)をデジタルデータ化し世界からアクセス可能な情報としてのポータルサイトを準備中である。

2017年「MADE IN FIELD」代表(現在に至る)

2006年「匠」人材ロードが、新エネルギー財団主催の新エネルギー地域共同研究センターで「新エネルギー財団会長賞」受賞

1995年「スペイン国立ヴァレンシア工科大学」カラシップ奨学(株式会社 ホルベイン)

1994年「ボランテア活動等」国際交流基金フェローシップ助成事業に採択される(1979~2022年)

1986年「代表取締役」文化部長(現在に至る)

2016~2022年「越前市岡本地区自治振興会」文化部長(現在に至る)

2012~2022年「福井小水力利用推進協議会」(現在に至る)

2004~2022年「いまだて遊作塾代表(現在に至る)」

2010年「eco japan cup 2010 eco art部門」で進グランプリ受賞

2004年「協同組合ロード」が、第3回産学官連携推進功労者「科学技術政策担当大臣賞」を受賞

1992~1995年「今立町結び村構想研究会」研究員

1999年「協同組合ロード」が、中小企業異業種交流財団主催の融合化立